

児童生徒の学習評価等関係資料

I. 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）〔抄〕（平成 22 年 5 月 11 日 初等中等教育局長通知）

1 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

(1) 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であること。その上で、新しい学習指導要領の下における学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要であること。

【1】 きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。

【2】 新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。

【3】 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

(2) 学習評価における観点については、新しい学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理し、各教科等の特性に応じて観点を示している。設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要があること。

(3) 高等学校における学習評価については、引き続き観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要があること。

○外国語科の評価の観点及びその趣旨

〈中学校 外国語〉

観 点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣 旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

〈高等学校 外国語〉

観 点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣 旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

○参考 〈小学校 外国語活動の記録〉

観 点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣 旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

Ⅱ. 評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料〔抄〕（平成 23 年 11 月，平成 24 年 3 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

《中学校 外国語》

(3) 観点別学習状況及び評定の記入方法について

改善通知に示された中学校生徒指導要録における観点別学習状況及び評定の記入方法は、次のとおりである。

【中学校生徒指導要録】

(学習指導要領に示す必修教科の取扱いは次のとおり)

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況（小学校児童指導要録と同じ）

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を観点ごとに評価し，次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

II 評定

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を総括的に評価し，次のように区別して記入する。

「十分満足できるもののうち，特に程度が高い」状況と判断されるもの：5

「十分満足できる」状況と判断されるもの：4

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：3

「努力を要する」状況と判断されるもの：2

「一層努力を要する」状況と判断されるもの：1

《高等学校 外国語》

(4) 各教科・科目の評定の記入方法について

高等学校生徒指導要録における評定の記入方法は次のとおりである。

[各教科・科目等の学習の記録]

(1) 各教科・科目の評定

学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき，学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らして，その実現状況を総括的に評価し，次のように区別して記入する。

「十分満足できるもののうち，特に程度が高い」状況と判断されるもの：5

「十分満足できる」状況と判断されるもの：4

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：3

「努力を要する」状況と判断されるもの：2

「努力を要すると判断されるもののうち，特に程度が低い」状況と判断されるもの：1

※ (I.の通知は,) 高等学校における観点別学習状況の評価として, 「十分満足できる」状況 (A), 「おおむね満足できる」状況 (B), 「努力を要する」状況 (C) によって行うことを明示しているわけではないが, 基本的な考え方は小・中学校と同じものになると考え, 後に示す評価の事例もこれによっている。

(注) 括弧内は事務局にて追記

《中学校 外国語》

【「話すこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。 ・聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。 ・問答したり意見を述べ合ったりなどしている。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉を用いるなどして話を続けている。 ・身振り手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。 	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。 <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ・尋ねられたことに対して適切に応答することができる。 ・適切な声量や明瞭さで話すことができる。 ・聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 ・与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。 		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音の違いに関する知識を身に付けている。 ・基本的な強勢の違いを理解している。 ・基本的なイントネーションの違いを理解している。 ・基本的な区切りについて理解している。 ・話を続けるために必要なつなぎ言葉や相づちをうつ表現などを知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校や社会における日常の生活や風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

《高等学校 外国語》

【「(4) 書くこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず、積極的に情報や考えなどについて書いている。 ・読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。 ・必要に応じて辞書などを活用して書いている。 ・うまく表現できないことがあっても、既知の語句や表現を用いるなどして書き続けている。 ・授業を通して学んだことや、学校や家庭などにおける日常生活の中で学んだり経験したりしたことを積極的に活用して書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して適切に書くことができる。 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。 ・聞いたり読んだりした内容を、平易な表現に置き換えたり、情報の順番を変えるなどして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。 ・自分が伝えたいことについて、話題を明示した上で、それに関する意見やその理由を書くことができる。 ・トピック・センテンスやキーワードを適切に用いて、要点が明確な文章を書くことができる。 ・つながりを示す語やフレーズを適切に用いて、論理の展開が明確な文章を書くことができる。 ・事実と意見などを区別して書くことができる。 ・読み手からの指摘に基づいて、表現の曖昧さを無くしたり、語句や文法などの誤りを正したりすることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。 ・正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。 ・段落におけるトピック・センテンスの働きについての知識を身に付けている。 ・文と文、段落と段落のつながりを示す語やフレーズを理解している。 ・場面や状況に応じた表現についての知識を身に付けている。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。